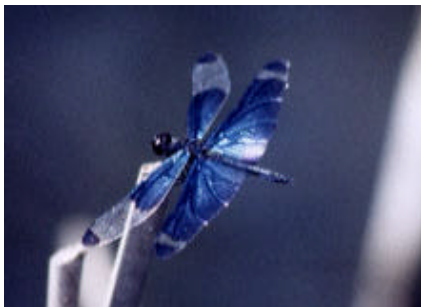


チョウトンボ

Rhyothemis fuliginosa



＜生物の写真＞

＜環境写真＞

分類群	魚類	貝類・甲殻類		爬虫類・両生類		昆虫類			
種の特Ⓕ性	絶滅危惧種	危急種		希少種		外来種	指標種		
分布地域 (農政局単位)	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州	沖縄

【分布】

本州、四国、九州に分布し、西南日本では比較的普通だが、関東以北とくに東北地方北部では産地が限られる。離島では淡路島、隠岐、杣岐、五島列島の福江島、天草諸島、甕島列島、種子島などに分布する。

【名前の由来】

翅の黒い模様がチョウのようであることと、チョウのようにヒラヒラと飛ぶことに由来している。また、若い個体が飛行機のように高いところを滑空飛翔することから「ヒコウキトンボ」とも呼ばれる。

【形態的な特徴】

体長 35mm 内外（腹長 雄 22～26mm、雌 21～24mm、後翅長 33～38mm）で、雌雄ほぼ同じ大きさ。黒くて金属光沢のある幅広い翅を持ち、チョウのように舞うトンボである。翅端に透明部分がある個体もいて、翅の斑紋には個体差がある。体色は雌雄とも全身黒く、成熟の度合いによってもほとんど変わらない。

幼虫の体長は 13～15mm（頭幅 5mm）ほどで、褐色地に濃色斑のあるヤゴ。

【生態的な特徴】

成虫は6月から9月頃に見られる。幼虫はおもに夜間、[挺水植物](#)の茎や葉の裏などに[定位](#)して羽化する。羽化後の未成熟個体は羽化水域近くの林に集まり、高木の樹冠の開けた空間をヒラヒラと舞うように飛び、ときには数十の群れが乱舞することもある。成熟した雄は、再び水辺に戻り縄張りを形成する。交尾をした雌は単独で挺水植物の際や沈水植物、浮遊植物などのある水面に[連続打水産卵](#)をする。

【生息環境】

おもに平地から丘陵地のヨシやマコモ、ガマなど草丈の高い[挺水植物](#)がよく繁茂した、腐植栄養型の池沼に生息する。しばしば海岸付近の汽水が入る沼沢にも生息する。幼虫は、挺水植物の根際や植物性沈積物の陰に潜んだり、水底のやわらかい泥に浅く潜って生活している。

【生息状況】

東北地方では産地が限られてまれであるが、西南日本ではよく見られる。しかし近年、本種の好む[挺水植物](#)の繁茂した池沼などが減少したことにより、全国的に生息地が減っている。

【生態系保全のための留意点】

本種が好んで生息するヨシやマコモ、ガマなどが繁茂する溜め池・沼などは、管理せず放置しておくとも漏水し、徐々に乾燥して水深が浅くなり草地化してしまう。したがって、本種の生息環境を維持するためには、適度に[挺水植物](#)が繁茂しヤゴが生息可能な水深が維持できるよう維持管理をする必要がある。

【備考】

琉球列島には本種は分布しないが、同属でよく似たベッコウチョウトンボ（オキナワチョウトンボ）*Rhyothemis variegata imperatrix* が生息している。